



サンモールアートで飾ろう

にぎわい創出へ展示スペース

小樽市中心部のサンモール一番街商店街に1日、市内の幼稚園児や小中高生、市民サークルなどが製作した絵画作品や書の展示スペースが開設された。中心部ににぎわい創出を目的に、同商店街振興組合(三ツ野篤久理事長)が企画。ベンチやテーブルも設置し、この企画の大森富美雄実行委員長は「市民の憩いの場になれば」と期待している。

(渡辺佐保子)

同商店街は4月に新屋台村「おたる屋台村ろまん横丁」がオープンするなど夜間の集客策は進んでいる。層間の人通りを増やすこと

が課題になっていた。大森さんは「絵画作品を展示すれば彩りも豊かになり、足を止めるきっかけになると考えた」と話す。

4月下旬から市内の幼稚園や小中学校、高校、小樽商大などに呼びかけて作品を確保。高さ1・2メートル、横

2・4メートルの展示ボードを10個用意し、1団体一つを自由に彩ってもらうことにした。1カ月単位で展示団体を入れ替えることを計画している。

第1弾が1日から始まり、高田幼稚園の園児の貼り絵や市民が参加するスケッチクラブの風景画など6団体で作品を展示している。発表の場として活用してほしい」と話す。問い合わせは新海金物店 ☎013-4-333-4649へ。

サンモール一番街商店街に開設された市民の作品展示スペース